

## 中国上海市におけるロックダウンの生産への影響について

## &lt;ポイント&gt;

1. 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2022年3月末～5月末にかけて中国上海市においてロックダウン（以下「上海ロックダウン」という。）が行われ、物流機能が制限されたほか、中国国内の多くの工場が稼働停止となった。この影響は中国国内にとどまらず、日本や世界に大きな影響を与えた。実際、我が国の鉱工業生産は、上海ロックダウンが実施されていた2022年4月及び5月に、それぞれ前月比▲1.5%、▲7.5%と大幅に減少した（図1）。また、上海ロックダウン解除直後の6月1日～9日にかけて行われた東京商工リサーチの調査によると、上海ロックダウンの影響について、マイナスの影響が「継続している」と回答した企業は44.9%にのぼり、マイナスの影響が「出たが収束した」、「今後出る可能性がある」まで含めると、「マイナスの影響」を挙げた企業は合計で66.3%となった。特に自動車部品等を含む「輸送用機械器具製造業」（以下「輸送機械」という。）や「繊維・衣服等卸売業」、半導体等を含む「電子部品・デバイス・電子回路製造業」（以下「電子部品・デバイス」という。）において、高い割合となった（図2）。  
一方で、上海ロックダウンが我が国の生産に与えた影響は、業種ごとにみると一様ではない。以下では、上海ロックダウンの時期に生産が大きく落ち込み、また「鉱工業指数」におけるウェイトが比較的高い「輸送機械」（約18.0%）と「電子部品・デバイス」（約5.8%）の動きを分析する。
2. まず「輸送機械」の2022年4～6月の生産の推移をみると、4月は微減（前月比▲0.1%）、5月に大きく減少（同▲7.4%）している（図3）。また、同時期の「自動車の部分品」の中国から日本への輸入量をみると、4月に大きく減少（前月比▲21.0%）しており、5月（同+12.0%）、6月（+14.4%）と徐々に回復していることがわかる（図4）。このことから、上海ロックダウンに伴う「輸送機械」への影響は、まず中国からの「自動車の部分品」の輸入量が減少し、次第に部品の供給制約等がより深刻化する中で、日本における大手自動車メーカーの工場も稼働停止あるいは縮小を余儀なくされ、生産量が減少するという経路で生じたものと考えられる。
3. 一方、「電子部品・デバイス」の生産の推移をみると、4月時点で大きく減少（前月比▲6.6%）している（図5）。また、「半導体等電子部品」の日本から中国への輸出割合についても、4月に大きく減少しており（図6）、上海ロックダウンとほぼ時期を同じくして生産・輸出に影響が生じている。
4. こうした上海ロックダウンによる「輸送機械」と「電子部品・デバイス」の生産への影響のタイミングの違いについては、「輸送機械」は、中国等から日本へ輸入される部品を用いて生産される製品である一方、「電子部品・デバイス」は、日本から中国等へ輸出された後、中国国内の工場等においてさらに加工される製品であるという、財としての性質の違いに由来しているものと考えられる。「輸送機械」は、上海ロックダウンによって中国国内の「自動車の部分品」関連の工場が停止し、我が国における輸入量が減少した場合でも、日本国内の工場においては当該部品の在庫等を用いて一時的には生産が可能であるため、上海ロックダウンによる供給制約等の影響が時間差をもって現れたと考えられる。一方、「電子部品・デバイス」は、中国の工場等が停止した場合、中国においてこうした財は一時的に不要となるため、我が国企業において

は受注量が減少することとなり、上海ロックダウンとほぼ時期を同じくして生産の減少が生じたものと考えられる。

実際、「輸送機械」は、生産と同様、5月に在庫が大きく減少（前月比▲6.6%）しており、「自動車の部分品」の不足により生産が行えなかった影響が見受けられる（図3）。また、「電子部品・デバイス」について、出荷に対する在庫の割合を示す在庫率を確認すると、生産が減ったにもかかわらず4月に大きく上昇（同+7.8%）しており、中国において「電子部品・デバイス」の需要が減少したことが見受けられる（図5）。

- このように、上海ロックダウンによる我が国の生産への影響は、財としての性質によって生産が減少するタイミングに相違があった。もっとも、こうした相違はあるものの、中国という一つの国の都市封鎖によっていずれの財も生産の大幅な縮小を余儀なくされた点は共通であり、今回の上海ロックダウンは、中国と日本との経済活動の結びつき、グローバルサプライチェーン・国際的分業の下での相互依存関係の強さを示す出来事であった。いずれにせよ、「輸送機械」の生産は5月までの減少から一転、6月に大幅に増加し、7月の「自動車の部分品」の中国から日本への輸入量が増加していること等からも、上海ロックダウンの生産への影響は解消されつつあるといえよう。なお、「電子部品・デバイス」の生産についても6月に回復しているものの、「半導体等電子部品」の6月、7月における中国への輸出については、中国の景気鈍化によるスマートフォンやパソコン、ゲーム需要の落ち込みにより減少しているものとみられる。

図1：「鉱工業生産」の  
生産・在庫・在庫率の推移

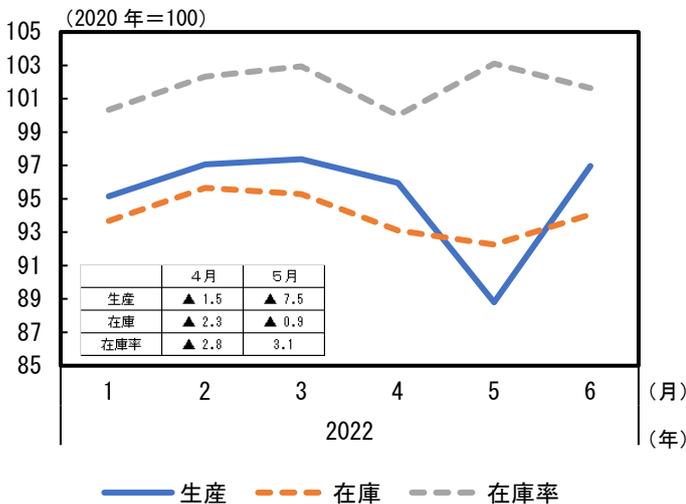


図2：マイナスの影響が「継続、収束、今後出る可能性がある」と回答した割合（業種別）

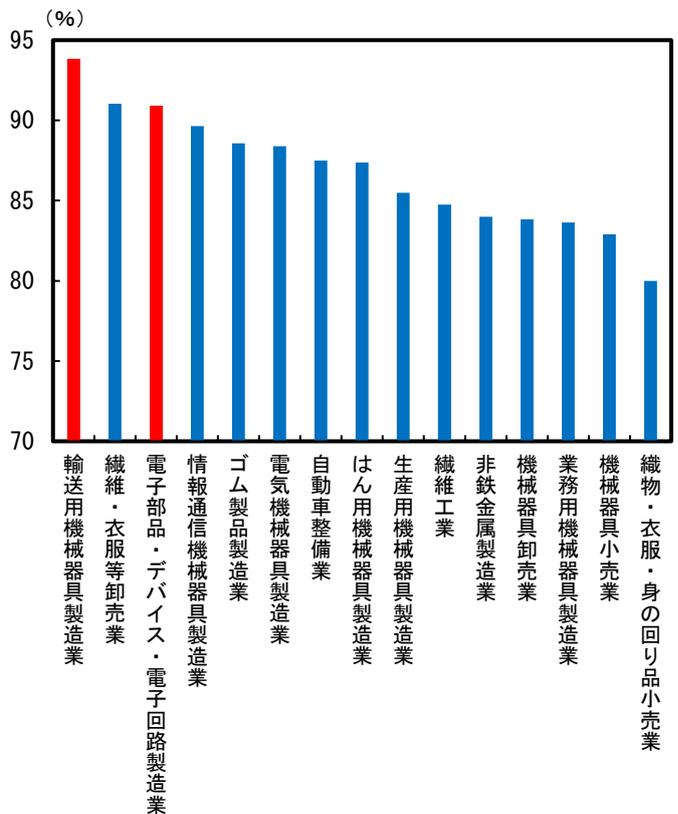


図3：「輸送機械」の  
生産・在庫・在庫率の推移

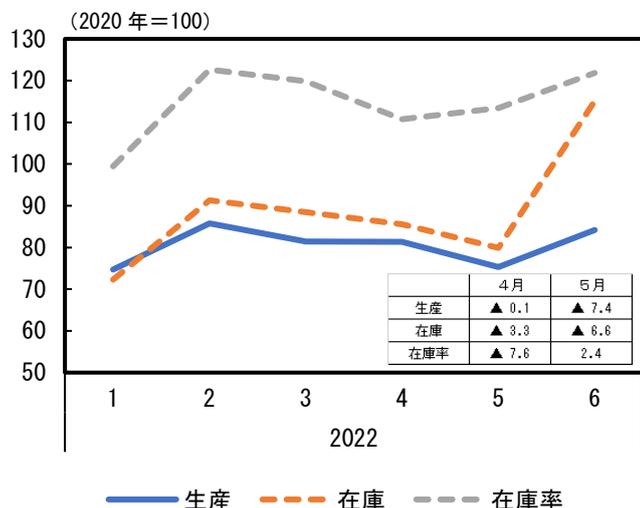


図4：「自動車の部分品」の中国から日本への  
輸入量の推移

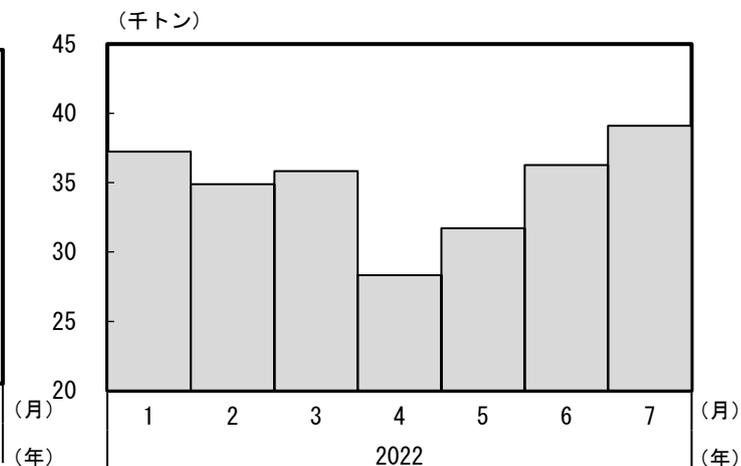


図5：「電子部品・デバイス」の  
生産・在庫・在庫率の推移

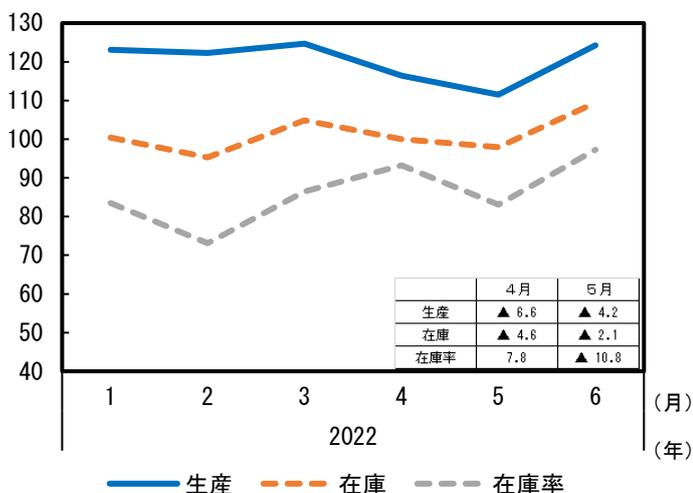
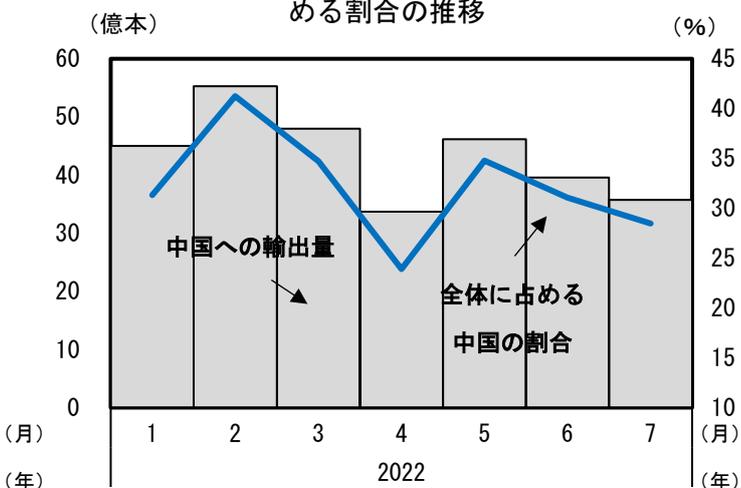


図6：「半導体等電子部品」の輸出量と中国が占  
める割合の推移



- (備考) 1. 図1、3、5は経済産業省「鉱工業指数」により作成。季節調整値。  
2. 図2は東京商エリサーチ「上海ロックダウンに関するアンケート」(2022年6月24日公表)により作成。  
3. 図4、6は財務省「貿易統計」により作成。数量ベース、季節調整値。

担当：内閣府 政策統括官(経済財政分析担当)付参事官(総括担当)付  
木下 梨緒(直通 03-6257-1566)

本レポートの内容や意見は執筆者個人のものであり、必ずしも内閣府の見解を示すものではない。